プレスリリース

慶應義塾大学

2024 年 10 月 29 日

報道関係者各位

慶 應 義 塾

Speech“演説”を受け継ぎ 150 年
第 713 回三田演説会
「幕末薩摩の若者たちと私 －薩摩スチューデントを追って－」開催
作家・国文学者の林望氏による幕末留学生の肖像

自分の意思を多数の相手に伝達する手段として、演説や討論という方法を日本に紹介したのは、福澤諭吉と初期の慶應義塾入門生でした。明治 7 年には三田演説会を組織して一般に公開することとし、また演説や討論の仕方を手ほどきした本や規則を発表して、その普及につとめました。慶應義塾はその伝統を脈々と受け継ぎ、日本最初の演説会堂である三田演説館において、毎年、三田演説会を開催しています。

本年開設 150 年を迎えた三田演説会は、12 月 4 日（水）に「幕末薩摩の若者たちと私 －薩摩スチューデントを追って－」と題して、作家・国文学者の林望氏が講演します。本演説会のイベント欄へのご掲載、およびご取材をぜひご検討くださいますようお願いいたします。

1．開催概要

（1） 日　時：2024 年 12 月 4 日（水） 14 時 45 分～16 時 15 分（開場 14 時 00 分）

（2） 講演者：林 望（作家・国文学者）

（3） 演　題：「幕末薩摩の若者たちと私 －薩摩スチューデントを追って－」
かつて『薩摩スチューデント、西へ』という小説を書いた。これは慶應元年に薩摩藩が極秘裏に英国へ派遣した留学生 15 人と外交使節 4 人の事績を、史料に基づいて描いた長編歴史小説である。この作品を書くために、私は前後六年を費やして日英両国で実地調査と史料博捜に当たった。小説ながらほぼ史実どおりの作品である。この調査の日々と、薩摩の若者たちの実像について語りたい。

（4） 会　場：慶應義塾大学三田キャンパス　三田演説館（重要文化財）
東京都港区三田 2-15-45

（5） 交　通：JR 山手線・京浜東北線　田町駅下車（徒歩約 8 分）
都営地下鉄浅草線･三田線　三田駅下車（徒歩約 7 分）
都営地下鉄大江戸線　赤羽橋駅下車（徒歩約 8 分）
https://www.keio.ac.jp/ja/maps/mita.html

(6)　参　加 ：入場無料・ウェブフォームから事前予約
https://forms.gle/mf8RoGkVrGGfixKA8
※定員に達し次第、受付終了予定。

2．講演者 林 望 プロフィール

〔略歴〕

1949 年東京生。作家・国文学者。慶應義塾大学文学部卒・同大学院博士課程満期退学（国文学）。東横学園女子短大助教授、ケンブリッジ大学客員教授、東京藝術大学助教授等を歴任。『イギリスはおいしい』（平凡社/文春文庫）で日本エッセイスト・クラブ賞、『ケンブリッジ大学所蔵和漢古書総合目録』（P・コーニツキと共著、ケンブリッジ大学出版）で国際交流奨励賞、『林望のイギリス観察辞典』（平凡社）で講談社エッセイ賞受賞。『謹訳源氏物語』（全十巻、祥伝社）で毎日出版文化賞特別賞受賞、後に『（改訂新修）謹訳源氏物語』（全十巻、祥伝社文庫）。学術論文、エッセイ、小説、歌曲の詩作、能評論、古典評解書を多く執筆。また、若い頃から能楽の実技を学び、能公演における解説出演や能解説等執筆多数、観世流宗家観世清和師とともに新作能『聖パウロの回心』作劇。また声楽実技を学んで声楽独唱曲・合唱曲の作詩多数。合唱組曲『夢の意味』『鎮魂の賦』（上田真樹作曲）、歌曲集『旅のソネット』（二宮玲子作曲）、独唱曲『あんこまパン』（伊藤康英作曲）、演劇的組歌曲『悲歌集』（野平一郎作曲）、歌曲集『追憶三唱』（深見麻悠子作曲）等、慶應義塾横浜初等部校歌（湯浅譲二作曲）等多数。

〔主要著書〕

『ケンブリッジ大学所蔵和漢古書総合目録』（P．コーニツキと共著、ケンブリッジ大学出版，1991）
『イギリスはおいしい』平凡社，1991（文春文庫，1995）
『書藪巡歴』新潮社，1995（新潮文庫,1998）（『増補書藪巡歴』ちくま文庫，2014）
『女大学評論・新女大学』福沢諭吉著・林望監修、講談社学術文庫，2001
『薩摩スチューデント、西へ』光文社，2007（光文社時代小説文庫，2010）
『謹訳源氏物語』全十巻　祥伝社，2013
『謹訳平家物語』全四巻　祥伝社，2016
『謹訳徒然草』祥伝社，2021

3．三田演説会について

福澤諭吉は、「演説とは英語にて『スピイチ』と云ひ、大勢の人を会して説を述べ、席上にて我思ふ所を人に伝うるの法なり」（『学問のすゝめ』十二編）と述べています。演説という概念はその当時の日本には存在せず、多くの聴衆の前で自分の意見を述べるという「演説」を実践しながら、試行錯誤の末に創造されました。経緯は『三田演説日記』などの記録に記されていますが、演説の練習を行うにあたり「決して笑ってはならない」と取り決めたというエピソードが「演説会」創始の苦心を端的に物語っています。また、福澤は「演説」「討論」などの言葉も創り出しています。「演説」は「スピーチ」の訳語ですが、福澤の出身藩である旧中津藩で藩士が藩庁に対して意思を表明するために用いた「演舌書」という書面に由来します。「舌」という語句は俗的であったために「説」に換えたと福澤本人が述べています。旧来の言葉に「スピーチ」という新しい意味と実体を与えたことに大きな意味があったとされています。さらに「ディベート」の訳語を「討論」と定め、「否決」「可決」などの用語が決められました。

＊本資料は文部科学記者会、新聞各紙社会部・文化部、イベント欄担当等に送信しております。
＊ご取材に際しては、事前に下記【広報室】までご一報下さいますようお願い申し上げます。

【本イベントに関する問い合わせ先】
慶應義塾広報室（担当：若原）
TEL 03-5427-1541　FAX 03-5441-7640
Email　m-pr@adst.keio.ac.jp　https://www.keio.ac.jp/